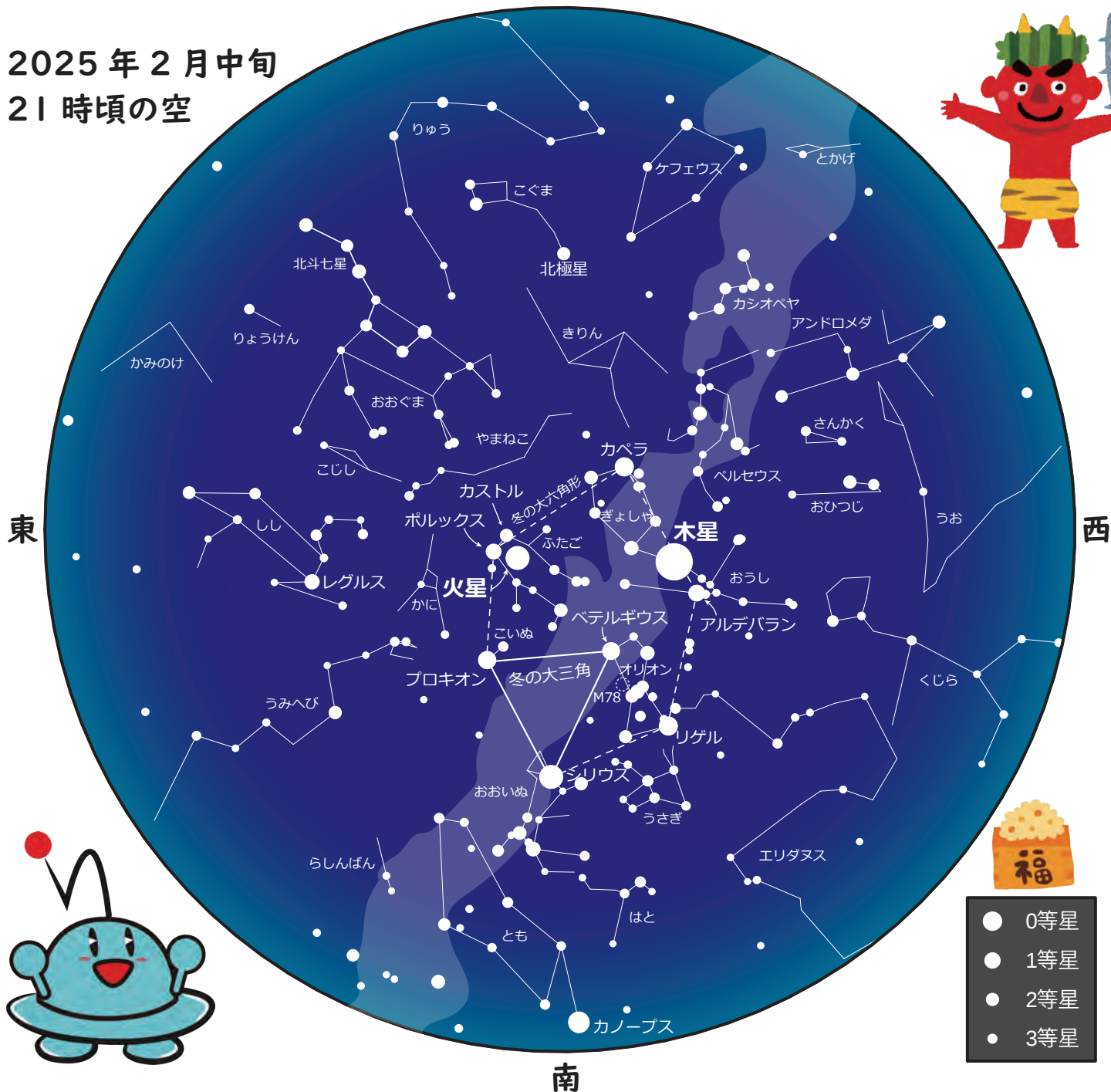


阿南市科学センター 2月の星空案内

北

2025年2月中旬
21時頃の空



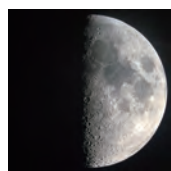
南

山も冬化粧をし、寒さもクライマックスとなってきた2月。木々は葉が落ちてさみしいですが、夜空は明るい星がたくさん輝きとてもきらびやかです。今夜一番明るく輝いているのは**木星**（ -2.4 等）です。その近くの明るい赤い星はおうし座の一等星**アルデバラン**（約 0.9 等）。さて少し東に目をそらすとまたまた明るい赤い星が輝いており、これが**火星**（ -0.7 等）です。火星を挟むようにふたご座の兄弟星が輝いています。一等星の**ポルクス**（約 1.2 等）は弟、二等星の**カストル**（約 1.6 等）は兄の星です。南の低い空を見渡せる場所では低空に**カノープス**（約 -0.6 等）と呼ばれるとても明るい星があります。この星は長寿星と呼ばれ、見ると長生きできるといわれています。**シリウス**（約 -1.4 等）から南へたどると見つかることができるかもしれません。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催】

阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <https://www.ananscience.jp/science/>

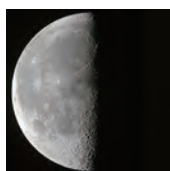
■ 2月の月の満ち欠けと惑星について



上弦
5日



満月
12日



下弦
21日



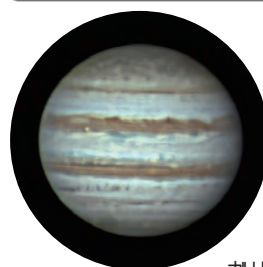
新月
28日

天体観望会で 月が見えるおすすめ日時は？



2/8(土):19時、20時の回がおすすめ

天体観望会では木星の観察がおすすめ
じゃ。予約は19時か20時が良いぞよ。



ガリレオ・ガリレイ (1564-1642)

水星：下旬、西のごく低空に見える。【約-1.2等】

金星：宵の明星として西の空に見える。【約-4.6等】

火星：一日中観察できる。【約-0.7等】

木星：日没後、南の空で見え始め、後半夜に沈む。【約-2.4等】

土星：日没後に西のごく低空で見えるがすぐに沈む【約1.1等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星のみ下旬の明るさ）。

■ 今月のおすすめ天体

【冬の特大三角を観察してみよう】



図1：惑星と冬の一等星たち（撮影日：12月28日，by Y. Wakafuji）

オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンをつないでできる冬の大三角は小学4年生で習う有名な星の並びです。この中でもシリウスは全天で最も明るい恒星で明るさはマイナス1.4等級。しかし、夜空を見上げると、シリウスよりも明るい星が2つ輝いています。この二つは恒星ではなく惑星です。現在の夜空で一番明るいのは木星、おうし座の一等星アルデバランの近くにいます。そして赤く輝いているのは火星です。ふたご座の近くを通っています。こうしてシリウス、火星、木星といった3つの一等星よりも明るい星をつないで冬の特大三角を見つけることができます。しかし、惑星は漢字の通りじっとせず日に日に位置を変えます。そのため次の冬は同じような形にはみえないでしょう。今冬限定の星の並びとしてお楽しみください。

■ イチオシ天体写真

【いっかくじゅう座のばら星雲】

冬の星座の一つに、いっかくじゅう座という星座があります。主に4等星からなるマイナーな星座ですが、天体写真家の間では大人気の「ばら星雲」と呼ばれる天体があります。写真に写すと、まるでバラの花びらのように広がった赤い星雲が浮かびあがってきます。この赤い色は主に星雲を形成している水素ガスがじわじわと放つ光です。星雲の中央部には「散開星団（NGC2244）」があり、星団から放射される強い紫外線の影響を受けて、星雲が発光していると考えられています。この散開星団はばら星雲で誕生したとも言われており、星の誕生や進化を探る上で、天文学者も注目している対象です。

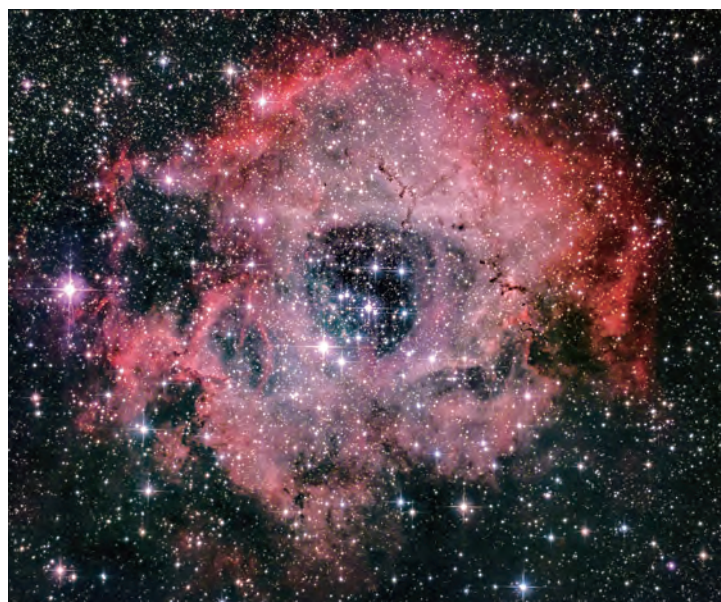


図2：ばら星雲の姿 (D=13cm F5 + ASI294MC-pro, by K. Imamura).

※この写真は一般財団法人全国科学博物館振興財団の支援を受け撮影しています。